

軽井沢の原風景、 湿地生態系を 遺したい！



アサマフウロ

群馬県境に近い軽井沢町馬取山田地区。レイクニュータウンと丸紅南軽井沢別荘地に囲まれた17ヘクタール余りの休耕田で、現在はほ場整備事業が進められています。

この湿地には、アサマフウロ、ヒメマツカサススキ、カヤネズミなど、可愛らしくて珍しい花たち、動物たちがずっと前から住んでいて、**町の原風景ともいえる貴重な湿地生態系が残っています。**

私たち「軽井沢サクラソウ会議」は、「自然環境と共存するほ場」として、農地の一部に湿地生態系が生き残るエリアを造って欲しいと要望しています。



ヤチアザミ



カヤネズミ

《この湿地に生息する貴重な動物や植物》



●アサマフウロ

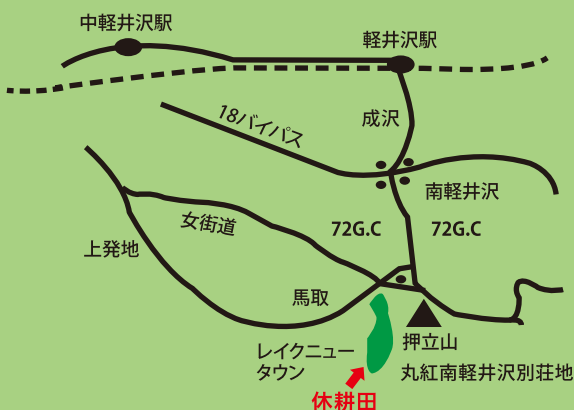
環境省・長野県の準絶滅危惧種
1894(明治27)年 軽井沢で発見。

●カヤネズミ (写真提供: 全国カヤネズミネットワーク)
日本最小のネズミ重さ8g 長野県準絶滅危惧種
ススキなどの葉で丸い巣を作る。

●ヒメマツカサスキ

環境省・長野県の絶滅危惧Ⅱ類
1888(明治21)年 牧野富太郎博士により軽井沢で発見。
学名は *Scirpus karuisawensis Makino*

《馬取山田地区の休耕田MAP》



〈ほ場整備事業概要〉

- 事業主体 軽井沢町(工事完了までは県営事業)
- 総額約6.6億円(約9割が国県の補助)の事業
- 湿地である休耕地に排水工事を施し、客土による嵩上げ工事を施す。
- 令和5年度以降着工、令和8年度工事完了予定
- 完了後、5経営主体による高原野菜中心の営農開始予定。

軽井沢サクラソウ会議はこれまで、東京農業大学宮本太研究室・長野県環境保全研究所などの専門家のご意見をいただいておりますが、今後も多方面のご意見を拝聴しながら、町・県に対し、自然環境と共存する整備計画が実現できるよう働きかけて参ります。

また全国の皆さんに、軽井沢町で行われているこの計画地のアサマフウロを知っていただきたいと思い、2022年8月17日に、宮本太先生にアサマフウロ見学会での解説をお願いしました。

YOU TUBEにこの見学会のビデオをUPいたしますので、ご覧ください。

「YOU TUBE アサマフウロ」と検索してください。



軽井沢サクラソウ会議

- 2000年発足
町花サクラソウ自生地保全活動のほか、町環境課と共に特定外来植物駆除活動を継続
- 2018年 信州エコ大賞受賞
- 2020年 県知事表彰(環境保全功労団体)受賞

ご意見ご要望をお寄せいただける方、詳細情報をお求めの方は下記までご連絡ください

軽井沢サクラソウ会議事務局

HP:<http://www.sakuraso.org/>

E-mail:info@sakuraso.org

090-4025-6729